

# 水辺の 環境



## エビネ

ラン科エビネ属エビネ *Calanthe discolor*

**落**葉広葉樹林やスギ植林、雑木林の林床などに生育する高さ 20～40cm のランの仲間で、北海道から九州・沖縄まで広く分布しています。漢字(和名)では「海老根」と書きます。これは、地中に球状に肥大した地下茎(偽球茎)が横に連なっている様子がエビに見えることが由来となっています。

側花弁という暗褐色～褐緑色の花びらと、唇弁という淡い紅白色～白色の花びらから成る花が特徴的で、4～5月頃、1本の茎に8～15個の花を付けます。

キエビネやキリシマエビネなどが近い種として位置づけられていますが、エビネは自然状態で交雑をすることから個体間の変異が大きく、例えば、花の色にも様々な違いが見られるため、園芸の分野でも非常に人気が高く、これまでに多くの園芸品種が生み出されました。かつては山林に普通に見られるランの一種でしたが、この人気、野生で分布するエビネの乱獲に拍車をかけ、加えて、森林伐採や土地造成といった自生地の減少により、その数は大きく減少してしまいました。現在、環境省のレッドリストでは準絶滅危惧種に指定されていますが、都道府県毎の指定状況を見ると、絶滅危惧Ⅰ類<sup>\*</sup>や絶滅危惧Ⅱ類<sup>\*</sup>に指定されているところもあり、早急な保全の必要性が見て取れます。

水資源機構で実施しているいくつかの事業区域やその周辺でもエビネが確認されていますが、工事による地形改変などにより、その生育が危ぶまれる場合は、専門家の指導・助言を得ながら、必要に応じて保全の取組みを実施しています。

※レッドデータブック統一カテゴリ相当

参考文献：『日本の野生生物（木本Ⅰ）』 平凡社 1989年

『哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて』 平成19年8月3日 環境省

『レッドデータブック 日本の絶滅危惧植物』 日本植物分類学会 編著 農村文化社 1993年

環境省自然環境局 生物多様性センター インターネット自然研究所ホームページ